

平成26年度 須賀川市立西袋中学校の教育

《学校経営の理念》

- ◎文武両道を目指し、活気とうるおいのある学校を創造する。
- ◎生徒一人一人が持つ能力や可能性を引き出し、生徒の夢実現に向けた教育活動を実践する。



《めざす学校像》

- 生徒が安心して楽しく学べる学校
- 生徒一人一人が夢や希望をもち、その実現を目指し意欲的に活動する学校
- 「勤労・勤勉」の校風を基盤とし、誠実に活動する学校
- 保護者や地域と連携し、信頼される学校

《学校経営の方針》

- ① 職員の和を大切にし、生徒中心の学校経営を目指す。
(学校経営の目標)
- ② 喜びと充実感のある学校生活を推進する。
(教育活動の目標)
- ③ 落ち着きとうるおいのある教育環境を整える。
(教育環境の目標)
- ④ 家庭・地域社会との連携を密にし、開かれた学校づくりに努める。
(地域社会との連携)
- ⑤ 絶えず研修に励み、使命感にあふれた教師像を追求する。
(教師像)
- ⑥ 遵守事項を踏まえ、規律ある服務・勤務に努める。
(教師像)

教 育 目 標

- 《基本目標》
豊かな心を持ち、実践力のあるたくましい生徒
- 《具体目標》
- 明朗な生徒
 - ねばり強い生徒
 - 深く考える生徒

本年度の重点

【目指す生徒像】

- 《基本目標》
豊かな心を持ち、
実践力のあるたくましい生徒

《県中教育事務所学校教育指導の重点》

- ～子どもの「ゆめ」保護者の願いがかなう教育～
- ① 「確かな学力」の向上
(授業の改善・充実、少人数教育によるきめ細かな指導、学びの基盤づくり、幼小中高の円滑な接続)
 - ② 「豊かな心」の育成 (道徳教育の充実・生徒指導の充実)
 - ③ 「健やかな体」の育成
(体力の向上に関する取組の充実、食育・健康教育の推進、幼児児童生徒の安全確保)
 - ④ 特別支援教育の充実 (一人一人のニーズに応じた教育)

《須賀川市学校教育の重点》

- ～一人ひとりの個性が輝き、生きぬく力を育む学校教育の推進～
- ① 確かな学力の育成
○ 目指す学力の明確化と授業改善 ○ 学びの基盤づくり
 - ② 豊かな心の育成
○ 道徳教育の充実 ○ 組織的・体系的な生徒指導
 - ③ 健やかな体の育成
○ 体力・運動能力向上策の推進
○ 保健教育と安全教育の充実

I 明朗な生徒

- 健康で安全な生活習慣を身につけ、進んで体力の向上・健康の保持増進に努める。(心身の健康)
- 他者との望ましい関わり方を考え、積極的に行動する。(自他の尊重)

- ① 健康で安全な生活を送ろうとする意識の高揚
○組織的な健康相談、教育相談を実施する。
○交通事故絶無のための指導を徹底する。
- ② 体づくり、体力づくりの推進
○保健体育の授業や部活動、学校行事の関連を図った運営により効果を高める。
○体力テストの結果をもとに、小学校との連携を図りながら体力の向上を図る。
○健康な心身を培うために、家庭における望ましい食生活の実践について連携を図る。
- ③ 一人一人を認め合う学年・学級集団の育成
○学級における人間関係づくりを意識した学級経営を実践する。
○個を生かす場面を意図的に設定し、自己存在感や満足感を味わうことができるように努める。

- 不登校傾向生徒への支援 (不登校 0)
- 日常生活アンケート (年5回) による生徒の実態把握と教育相談 (チャンス相談) の実施
- 日常的な交通指導の実施 (交通事故 0)
- 部活動への積極的参加
- 安全で衛生的な給食、食事のマナー等の指導

II 粘り強い生徒

- 自分の立場や役割を自覚し、責任ある行動ができる。(役割と責任)
- 目標を持ち、その実現に向けて努力を続けようとする。(理想の実現)

- ① 道徳教育の充実
○心に響く道徳教育を展開するため、特に道徳の授業の充実を図り、豊かな人間性の育成に努める。
○教科の指導内容や学校行事との関連を図るとともに、地域の特色を生かした体験活動等を通して道徳性を養う。
- ② 学級活動の充実
○リーダーの育成や一人一人の役割・責任を明確にした係活動等を運営する。
○学習や諸活動において、お互いを高め合う学級集団づくりに努める。
- ③ 豊かな体験活動の拡充
○キャリア教育の充実を図り、職業体験などの活動を実施する。
○保護者や地域との連携を図ったボランティア活動を推進する。

- 「心のノート」の計画的な活用
- 松明づくりと松明あかしへの参加
- 生徒会・学級活動の充実 (一人一役)
- 情報収集と早期対応 (いじめ 0)
- 職場体験(2年)・探究学習(3年)の実施

III 深く考える生徒

- 望ましい学習態度や学習習慣を身につけ、学力の向上に努める。(学力向上)
- 自ら問題に気づき、正しい判断に基づいて解決することができる。(問題解決能力)

- ① 「わかる・できる授業」の実践
○1時間ごとのめあてを明示し、まとめの時間を確保する。
○各教科で表現力の育成を目指した授業を実践し、「読む・書く・聞く・話す・書く」などの言語活動を意図的に設定する。
○読書活動を推進し、読み取る力を育成する。
- ② 家庭学習のあり方の改善と習慣化
○保護者との連携により、家庭学習の時間を確保させる。
○自主学習ノートの効果的な取り組み方を指導する。
- ③ 校内研修の活性化
○一人1研究授業を行い、事前と事後の協議により指導力の向上に努める。
○小学校との連携を強化し、9年間を見通した教育活動を展開する。

- 学力テスト数値目標 (全国・県平均超)
- 読書 (年間10冊以上)
- 家庭学習の定着 (自主学習ノート100%提出)
- 各種コンクールへの積極的参加
- 研究授業の実施 (一人1授業)
- 小学校との連携